

平成29年度第1回熊本市病院事業運営審議会議事録（要旨）

1 日時：平成30年2月15日（木）19：00～21：10

2 場所 熊本市市民病院新館6階応接室
（熊本市東区湖東1丁目1-60）

3 出席者（敬称略、50音順）

(1) 熊本市病院事業運営審議会

会長：山田 一隆

副会長：森 美智代

委員：嶋田 晶子、武石 美友子、豊田 徳明

(2) 熊本市病院局

高田病院事業管理者、古庄総括審議員、内野植木病院長、川崎看護部長、
藤本事務局長、今村首席審議員

4 議第

熊本市病院改革プラン（案）について

5 議事録

熊本市病院改革プラン（案）について

＜事務局から、「熊本市病院改革プラン（案）」について説明を行った＞

委員： 独立採算の原則を強調するが、周産期や感染症は赤字なので、繰入金が必要ではないか。植木病院は、患者数に変化がないのに、平成28年度に収益の差が出たのはなぜか。

事務局： 一般会計から病院事業への繰出しは、国の繰出基準に基づいている。また、独立採算として、収支比率が20パーセントを超過すると自立再建ができないと認定されるので、改革プランの中で数値目標を設定し、改革を進めることとした。

植木病院の収益が平成28年度に下がったのは、震災によって市民病院から受入れた職員の人件費を賄ったため、これを除くと前年と変わらない状況である。昨年、新たに脳神経外科の医師がみえたので、増収すると

考えている。

委員： 改革プランが、5年以内の経営改善に力を入れているが、新しい病院の建て替えで影響はないのか。出前講座や市民公開講座にも力を入れていきたいとは、具体的にどのようなことを行っていくのか。医療機器の更新についてはどのように行うのか。

事務局： 約130億円の赤字を抱えてスタートするので、早期に黒字転換しなければならない。診療体制が整う2021年には黒字を目指したい。公開講座や市民公開講座は、市民病院が多くの診療科を持っているので、市民の健康意識の醸成に大きく役割を果たすことができると考える。医療機器の更新に際し、一時的に財政負担を与えるのではなく、更新計画をつくって計画的に買い換える。

委員： 患者さんが沢山来てくれるため、患者の生の声を聞いて、再度、行きたくなる病院づくりが必要ではないか。

事務局： 医療スタッフにより色々な積み重ねをすることによって、患者さんが喜んで来ていただけたらと思う。そのことが、最終的に収益に繋がると考える。

委員： 市民は、市民病院がどんな風に建つのか楽しみにしているので、出前講座や市民公開講座などの場を使ってPRすることが大切だと思う。地域包括ケアシステムで、他の医療機関との連携が必要となるが、看・看連携が出来ると患者さんを地域に帰したときのケアが継続できると考える。是非、地域に貢献していただくことを期待している。

事務局： 今、各区役所などの復興窓口に従事している看護師は、被災者の生活に触れており、今後の看護に繋がると思う。また、他の医療機関に派遣研修に出かけた看護師についても、他の医療機関で働いたことが、いい経験となり、良い病院がつかれると考える。

委員： 数値目標に病床利用率を記述しているが、急性期病院としては在院日数が重要であるので、病床稼働率の指標を使うことを検討して欲しい。

事務局： 委員ご指摘のとおり、病床稼働率の方が、病床の運用状況はよくわかる。病床稼働率は、90パーセントを超えれば経営は大丈夫かと思う。

委員： 包括ケア病棟については、地域医療の連携を考える中で、回復期病床ではなく急性期病床という概念を、地域医療構想の会議で説明する必要がある。また、在宅で急変した場合、包括ベッドをお願いしても時間が掛かってしまうケースがあるので、そこを市民病院が引き受けてくれると非常に有りがたい。

事務局： 市民病院の再建にあたって、委員がおっしゃったところを担うのも市民病院の役割を考えている。

委員： 東区主催の健康づくりのイベントに、市民病院からも顔を出して、頑張っている姿を周知してはどうか。

委員： 市電の延長は、どのようになっているのか。また、市電以外の交通の便は、検討されているのか。

事務局： 今、市民病院方面への延伸を検討しているが、手続き上、市民病院の開院までに間に合わない状況にある。また、利便性の向上のため、バス事業者に対し、構内の乗り入れをお願いしている。